

秋から新しい仲間をむかえ、皆さんも来年の夏に向けた活動を開始されていると思います。プロジェクトの計画は進んでいますか？  
今回は、少し時期が遅れましたが、まだまだ次の夏に向けて動いていく時間は十分にあるということで、ベンチャー隊の皆さんの参考資料となるよう、9月からの1年間のグループプロジェクト展開例の流れをご紹介します。

### 9月 隊会議 年間計画からプロジェクトへ向けて

前年度の1年間を振り返り、評価・反省をしながら年間計画をまとめた。その中で「個人プロジェクトはそれぞれ一定の成果を出しているが、今年は隊全体として取り組むプロジェクトを行いたい」ということになり、年間プログラムの流れを確認しながら、10月の歓迎キャンプ、隊会議で詳しく話し合うことにした。

### 10月 歓迎キャンプ・隊会議 ニーズのまとめ→企画へ

- グループプロジェクトに向けてのニーズをまとめた。
- スカウト技能、特に高度な野外技能を駆使した活動
- 冒険を伴う活動 ・1人ではできない活動 ・夏でこそできる活動

プロジェクトの進め方	
企画	目標・期間の設定
計画	具体的方法
実施	実行・記録
評価	報告・反省

企画のポイント 5W2H		
Who	人	誰が 誰に
What	内容	何を
When	時	いつ
Where	場所	どこで
Why	理由	なぜ(どんな目的で)
How	方法	どうやって
How Much	予算	いくらで

企画の手順	
①	ニーズ集約、課題整理(明確な目的・目標)
②	諸条件の整理
③	情報収集
④	アイデアの収集・選択
⑤	プロジェクトイメージ
⑥	組立、調整、集約、研究
⑦	企画書作成・提案→隊運営会議、隊会議

### 11月 イメージ共有・トレーニング開始

イカダでの川下りでは川幅の広がった下流からに限定され、川下りにはカヌーの方が適していることに気づいた。しかし、皆でスカウト技能で組むイカダを用いることに重きを置き、川下りから湖横断へと企画を軌道修正。これに基づき企画書を計画書へ詰めていく流れを確認した。またイカダ作りには欠かせない技能の第一歩として、あらためて結索のトレーニングに着手した。



年間プログラムの流れ	
①	前年度の年プロ評価 担当からの報告(会計、備品、安全、救急など)
②	ニーズ集約 隊集会、隊行事、技能訓練の決定 プロジェクトの決定(グループ/個人) 活動チームの編成(チーフ・マネージャー等の決定)
③	グループプロジェクト企画 プロジェクトの概要、実施時期・期間、予算等
④	各企画に対する検討・承認 年プロ案作成、実施時期・機関・予算・必要な技能訓練等の調整
⑤	年プロの決定 実施プロジェクト(個人・グループ) 諸行事の確認、隊集会(実施時期・内容等)
ベンチャープロジェクトの満たすべき事項 ※この中から2項目以上満たされること	
①	継続性
②	社会性
③	獨創性
④	生活意識の高揚
⑤	技能の向上、開発

隊の年間予定表	
隊活動	行事
9月	隊会議 上進式
10月	歓迎キャンプ・隊会議
11月	学園祭
12月	隊会議 団クリスマス会
1月	
2月	
3月	春季キャンプ・隊会議 卒業式
4月	入学式
5月	
6月	隊会議
7月	
8月	夏季キャンプ・隊会議

## 次の夏をビッグな夏に!



## グループプロジェクトに向けた

# 年間プログラム 徹底シミュレーション

### 12月 現地視察～諸条件の整理

隊での野営地、イカダによる横断、その他夏季キャンプに併せて行うプログラム実施等の条件から探し出し、実施場所に想定した湖の視察を行い、観光船、レジャーボート、漁業組合など湖の利用状況等を調査。野営地とイカダの組み立て・出発地～着岸場所の確保を行った。



### 1月 現状の問題点把握～対策・研究・調査

気象条件、各種の届出、救助体制などについて調べ、やはり救助艇の伴走が必要と判断。隊自身で体制がとれるか、艇のレンタルや船舶免許について調べることに。資材運搬を含め隊長へのサポート依頼事項の整理などを行った。

### 2月 安全対策・救急法

隊長の紹介で、ライフセーバー経験者からアドバイスと究明技能の講習をしていただく。地区で行われる「救急章技能功集会」にも参加。また、小型2級船舶免許が16歳から取得できるため、隊から数名挑戦することにした。

### 3月 春キャンプ パイオニアリング・艇設計

結索技能向上のため春キャンプでパイオニアリングを行った。また、地区の結索に詳しい指導者を招き、アドバイスを受けながらイカダの設計を行った。また予算の算出と確保の方法について着手。



### 4月 諸経費をまとめ予算の確定

イカダ資材、伴走艇レンタル、漕艇者日当ほか諸経費をまとめ、予算を確定。隊運営費の調整と参加費・徴収方法を定め、実施要項の準備にかかる。

### 5月 隊長の承認と実施要項配布

実施要項を固め、隊長に報告。プロジェクト実施承認を受けた。そのうえで参加者に向け実施要項を配布。プロジェクト実施に向けた具体的な作業分担を決め、推進。あわせて、隊・団の指導者による下見(プロジェクトリーダー他が同行)を依頼した。併せて、借り物、会場、支援者等の仮予約・申込・依頼を進める。

### 6月 試作

調達可能な資材を集めて原寸大の試作いかだを作り、問題点の洗い出しをした。また、必要な資材とその手配担当、状況の最終チェックを行った。試作作業中に軽度の脱水症状を起こすスカウトがあり、熱中症対策を強化することにした。指導者の下見では医療機関ほか関係各所への挨拶を併せ実施。

### 7月 準備作業

伴走艇、漕艇者、野営地、各種レンタル等の申込、依頼を再確認。数量の確定や予約金等の具体的処理。急遽参加できなくなったメンバーの参加費の処理など。

### 8月 夏キャンプ プロジェクト実施～評価

イカダプロジェクトのほか隊キャンプに必要な備品の整備と調達。夏キャンプ&プロジェクト実施。記録担当によるデジカメ写真やビデオを見ながら

の反省会を開き、報告書に記載すべき事項を全員で整理。年度内に隊長に提出できるように執筆分担、提出期限を設定した。

いかに水上プログラムの安全対策例	
①	熱中症への対策 ・定期的な水分補給→スポーツドリンク等を携行。こまめに水分を補給する。 ・日焼けの防止→日焼け止めを塗る。必ずTシャツなどを着用。肌が必要以上に露出しないようにする。ヘルメットをかぶる。
②	ライフジャケットの適正な着用 ・体重・身長による適正なサイズ・サイズを点検し、適正なサイズを着用できるよう手配・徹底する。 ・着脱の制限→航行中、曇りや身体が拘束されるなどからライフジャケットを外す事が無いよう徹底する。
③	伴走艇の確保 ・湖等実施場所に詳しい関係者の船を手配する。操者はなるべくプロ、またはセミプロに依頼する(要日当)。非常時に交替のできる免許保有者を備える。
④	スカウトの安全教育 ・熱中症への対策講習、救急法の再確認 ・出航前に水際でライフジャケットを着て一度浮いてみる→指導者監視の下、落水を想定し、ライフジャケットで水面に浮く感覚を体験しておく。
⑤	水の上での靴について ・かかとの脱げないスニーカーを必ずはく。(岸で足の付くところまでできたときの足の保護として重要)
⑥	艇に旗を立てる ・目印として遠くからでも確認できるように。竹竿等を利用してなるべく高くたてる。
⑦	できる限りライフセーバーなどレスキューの資格のあるものを同行させる ・地元消防などに問い合わせる。
⑧	搬送先病院等の確認 ・万一の場合の救急体制を確認。時間差別、移動の場合は各地点での連絡・搬送先等確認。当該の医療機関には事前に依頼を。

計画書作成のポイント	
プロジェクトの種類	個人・グループ
プロジェクト名	プロジェクトのイメージを表すもの
目的	何故行かうか、何のために行かうか
目標	内容・方法 何をやるか、どのようなことをするか
実施場所	実施場所・ルート
期間	タイムスケジュール 何時までに何をやるか、準備・実施・報告の流れ
予算	お金の使途について明確にする
安全対策	予想される危険、また事故に対しての準備と訓練
知識・技能	実施に当たった知識、技能はなにか、身につける方法を具体化する
準備品・装備品	必要な備品・装備と調達方法
緊急連絡先	宿泊地、携帯電話、自宅、団、隊指導者、病院など必要な連絡先を明記
献立	献立・食材表・栄養バランス
コース	目的地・交通手段・ルートの難易度の調査